

一般質問



板谷 議員

一、原子力関連の質問について
二、鷹島の観光政策について

質問

一、(1)九州電力が申請している使用済み燃料の保管に関しては、どういう結果が出ているのか。

(2)玄海原子力発電所2、3号機の運転再開に関しては、市民の納得が得られる説明会を開催することであるが、いづごろ開催され、国、県、九州電力からはどのような地位の方が説明されるのか伺いたい。

(3)安全協定と防災計画の取り組み状況について伺いたい。

また、原子力対策については市民代表、議会代表で構成するプロジェクトチームを設置し、協議をする場をつくる考えはないか。

二、(1)元寇遺物については、数十年に渡り調査が行われ数千点の遺物が発見されている。現歴史民俗資料館も老朽化しており、遺物も一部のみしか展示されていない。元寇博物館として施設を新設し、観光の名所とする考えはないか。

(2)観光政策として、若い者を残し養成するといった後継者育成についての問題をどう考えているのか伺いたい。

答 弁

一、(1)現在のところ、国が認可したということは聞いておりません。

(2)説明会は、玄海2、3号機の運転再開を前提としたものでなく、原子力発電所の安全性について十分な対策をとってもらった上で、市民に理解が得られるような説明を国に求めたものです。説明に当たっては、説明能力を備えた専門家の方をお願いしています。開催時期は、国によるストレステストの評価後に調整されるものと受け止めています。

(3)安全協定の締結は市の最重要課題であり、県と連携しながら全力を挙げて九電との協議を重ねて行きたい。現在、原子力対策本部を設け、避難行動計画の作成に取り組んでおり、また、防災危機管理担当の専任職員を配置する準備を進めています。

二、(1)鷹島の海底遺跡は市の財産であり世界に誇れるものです。県の指導や国の指定等を受けて、それに相応しい施設の整備等を行いたい。

(2)若い方々が故郷に残っていたことは重要な課題です。県の職業訓練、未就職者支援も活用しながら市としても支援策を検討したい。

一般質問



山口 議員

一、支所及び教育委員会分室等の職員の適正配置と運営について
二、喜内瀬遊休地へのグラウンドゴルフ場造成に伴うトイレ、休憩所と周辺整備について

質問

一、人事の度に支所の職員は減少し、住民サービスの低下を招いているような感じがする。(1)合併後の支所職員数の動向は。(2)飛び地の支所でこれ以上の減少は職員の仕事、行政サービスに影響が出る。今後の人事は。(3)身近な支所の扱いで地域は変わる。支所長にある程度の権限を与えたらどうか。(4)教育委員会福島分室で突如2名が退職された。適正配置に問題はなかったのか。

二、今回つばき荘に接する市有地に、多目的広場を兼ねたグラウンドゴルフ場が造成されている。(1)高齢者の利用が多い広場としては最も必要なトイレや休憩所がない。特に利用者に配慮して、トイレは早急に造るべきであるし、ベンチぐらいいは必要でないか。(2)カズラで荒れ放題の斜面は、景観は悪いしマムシ等の生息地で危険である。伐採によって全体の地形がわかり、散歩道や全体の青写真も生まれるのでは。(3)敷地内の元民族資料館は屋根もはげ、幽霊屋敷の状態である。整理すべきでは。

その他に農地・水・保全事業、学校統廃合について質問しました。

答 弁

一、(1)合併時の平成18年1月1日で福島支所28名が、平成23年9月1日現在は15名です。同じく鷹島支所は27名が15名となっております。

(2)飛び地という地域性も考慮しながら、何名で支所の業務をやっているかということについては十分考慮していきます。

(3)予算執行に関する権限は本庁の課長と同一です。支所長の権限というよりも、予算額の問題であるという認識を持っています。

(4)人事異動の前にはできるだけ把握して取り組んでおりますが、今回のことを反省材料として、混乱が起きないような対応に今後努めます。

二、(1)まずはつばき荘のトイレをご利用頂き、今後の利用状況を見ながら検討します。ベンチ等の設備は設置を予定しております。(2)カズラ等の伐採につきましては、今回の予算の中で実施するようにしております。

(3)喜内瀬の地区の3万平方メートルほどをどのように整備していくか全体的な青写真を今後詰めていかなければなりません。解体等も含めて今後検討していきたい。